



2008NTTトライアスロンジャパンカップ第6戦七ヶ浜大会速報 女子で大松沙央里(トヨタ車体)が2位

優勝は男女ともオーストラリア。女子サラ・クロウリー、男子ジェームス・シーア

7月6日(日)、宮城県七ヶ浜町湊浜海浜公園周辺の特設コースで、2008NTTトライアスロンジャパンカップ第6戦・2008ITUトライアスロンコンチネンタルカップ七ヶ浜大会が開催された。

この大会には、オーストラリアからの有力選手9名と、韓国から日本での合宿とレース参加を目的に来日している9名が参加した。

競技距離はオリンピック・ディスタンスの51.5km(スイム1.5km/バイク40km/ラン10km)。

午前11時スタートの男子エリートは、スイムでジョシュア・アムバーガー(オーストラリア)がトップに出ると、この大会で優勝経験のある平野司(NTT東日本・NTT西日本)がすぐ後ろについた。

バイクでは、アムバーガー、ジェームス・シーア、ジョシュア・メイダーのオーストラリア勢とヘオ・ミンホ(韓国)の4名が第1集団を形成。順調に後ろとの差を開く。



スイムでトップを競り合う佐藤優香(左)と中島



前を追う杉本(左)と高濱(その右)の第2集団/女子のトップ集団は4名

ジェームス・シーア オーストラリア



非常にタフなコースだったが、あまり気温が上がらなかったのが幸いした。バイクとランの序盤でオーストラリアチームの仲間と走れたのがいい結果を生んだ。はじめての日本に来て、いい結果が出せてうれしい。姉のマキシンはケガをしているが、この勝利は家族にとって朗報だ。

高濱 邦晃 チームコラテック



バイクでは結果ほど悪くはないローテーションや走りができたと考えたが、第1集団が速かった。ランの1周目でトップに30秒まで追いついたが、心拍数が上がりすぎて少しペースを落とした。それでまた差が開いてしまった。日本での大会なので、何としても勝ちたかった。

JTU Official Sponsors & Official Partners



第2集団には、高濱邦晃(チームコラテック)、杉本宏樹(チームブレイブ)、岩井信二(日本食研)にオーストラリアからの2名らを含む7名が入った。

ランに入ると、シーア、メイダー、アムバーガーの3名がミンホを置いて先頭に立った。それを追う日本選手は高濱だが、ラン序盤で30秒差まで詰めながら、中盤で差が開き、結局、1時間53分48秒でシーアが優勝した。2位は、メイダー、3位はアムバーガー。高濱は、惜しくとどかず、4位となった。

午後12時10分スタートのエリート女子は、中島千恵(トーションパートナーズ・チームケنز)がスイムをトップフィニッシュ。続くのは、スン・エンキョン、キム・ヒジョーの韓国勢。すぐ後ろには西麻依子(湘南ベルマーレ)がつけた。

バイクでは、西と中島、エンキョンとヒジョーが第1集団となり、七ヶ浜2勝目を狙う大松沙央里(トヨタ車体)と菊池日出子(チームブレイブ)、蔵本葵(東京ヴェルディ)が第2集団となったが、バイク最終周でこれら二つの集団は7名の第1集団となった。

ランでは、大松が満を持して飛び出し、菊池が後を追う。しかし、スイムで出遅れ、バイクを単独で走破し、ランにかけたサラ・クロウリー(オーストラリア)がただ一人37分台のラップをたたき出し、大松を抜き去って2時間10分12秒のタイムで優勝した。

2位には、ランで抜かれた大松が入り、3位は菊池が入った。

このレースの様子は「web JTU Magazine」フォトギャラリーでご覧になれます。



(上) トップを行くオーストラリア勢の3名とミンホ。先頭は優勝のシーア
(下) 前を追走する杉本(左)と高濱

サラ・クロウリー オーストラリア



スイムでかなり遅れてしまい、バイクでは単独で追いつけることになった。しかし、記者会見で話したとおり、バイクとランのコンビネーションで前を追った。ランの1周目でトップとの距離が分かったときにいけると感じた。気温が暑くならなかったのが、私にとってにより良かった。

大松 沙央里 トヨタ車体



七ヶ浜での2勝目を自分も期待していたので悔しい。ランに入るところまでは、自分の作戦がうまく決まって、このコースを攻略でいたと思っていた。惜しいのは、バイクの中盤で前の集団に追いついて、後ろとの差を広げたかったこと。クロウリー選手の走りも驚異的だった。

JTU Official Sponsors & Official Partners

